

レイアウト：縦書き  
 余白：上下 31mm 左 28mm 右 27mm  
 フォントサイズ 10.5pt 文字数 40字 行数 34行  
 「標準」スタイルは行間固定値 20pt  
 体裁－文字の配置：中央揃え

文字色「白」  
 蛍光ペンの色「黒」

# 古文・漢文プリント

MS ゴシック  
 14pt

注意！新しい段落スタイルを定義するとき、「基準にするスタイル」は「標準」あるいは（スタイルなし）を選ぶこと。

次の古文の勉強をしましょう。

今は昔、竹取の翁おきなといふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろずのことに使ひけり。名をば、讚岐の造となむ言ひける。その竹の中に、本光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光たり。

「挿入」→「図：図形」→「基本図形：長方形」

「挿入」→「図：図形」→「線：直線」

## 竹取物語より

「けり」は伝承の回想を表す助動詞。「なむ」は強く指示する係助詞。それを受ける述語は連体形で結ぶ。係り結びという。「たり」は完了の助動詞。

「ホーム」→「段落：拡張書式」→「縦中横」

① ②の言葉の意味を書きましょう。

② ⑥の読みを書きましょう。

次の漢文の勉強をしましょう。

子曰、学マナブ而シテ時ニ習フ之ヲ、不レ亦モ楽シ一ニ乎ヲ。人ノ不レ知ラ而シテ不レ慍ミ、自ラ遠ク方ニ来リ、不レ亦モ楽シ一ニ乎ヲ。論語 学而より

「挿入」→「図：図形」→「基本図形：大かっこ」

「挿入」→「図：図形」→「基本図形：長方形」

普通の□の文字「しかく」で変換すると出てくる行間固定値 10pt

「、」は文字間隔狭く 6pt

①の書き下し文を書きましょう。

②の適切な場所に返り点を付けなさい。

文字は「来」「、」「上」「空白」の順で並んでいる。「、」に対して「文字間隔」を「狭く 12pt」とすると、文字幅が 0 になる

古文と漢文の本文は「新訂 国語 I 教育出版株式会社 昭和 60 年 1 月 20 日発行」より引用

漢文用に 3 つの段落スタイルを定義  
 ルビ：左インデント 2 字 フォントサイズ 6pt 行間固定値 8pt  
 漢字：左インデント 2 字 フォントサイズ 12pt 行間固定値 12pt  
 体裁－文字の配置：中央揃え  
 行間用：左インデント 2 字 フォントサイズ 12pt 行間固定値 18pt  
 返り点用に文字スタイルを定義  
 フォントサイズ 6pt 文字位置下げる 3pt

古文の注釈 テキストボックス使用  
 フォント 9pt ぶら下げ 1 字  
 行間固定値 12pt  
 テキストボックスと文字列の間隔は上が 5mm

古文の中の①②⑥は文字スタイルを定義  
 フォントサイズ 7pt  
 文字位置上げる 6pt

古文の文章 左インデント 2 字  
 行間固定値 30pt  
 体裁－文字の配置：中央揃え